

## 都市計画マスタープラン—地域別構想（地域の概況）

### （１）地域の概況

#### ① 地域の位置・面積・人口

- 北 部：北部地域は、富山湾に面する伏木地区の市街地を中心とする地域であり、西側は氷見市に隣接。5地域の中では最も面積が小さい地域だが、地形的には最も変化に富む地域。
- 中 部：中部地域は、都心エリアを含む高岡の市街地と、牧野地区及び立野地区の市街地から構成され、東側は射水市に隣接。面積では市域の約3割、その中に市の人口の約7割が集中。
- 北西部：北西部地域は、市北西部の西山丘陵地と小矢部川沿いの田園地帯から構成され、西側は氷見市に隣接。地域の大半が市街化調整区域であり、5地域の中では最も人口が少ない地域。
- 西 部：西部地域は、平成17年に合併した旧福岡町から構成され、南側は小矢部市に隣接。他の4地域とは別の都市計画区域に指定され、山間部の一部は都市計画区域外。
- 南 部：南部地域は、市南部の戸出と中田の飛び市街地を中心とする地域であり、南側は砺波市に隣接。地域面積は小さいものの、多くの人口が集積する地域。

表 地域の面積・人口等

地域	地域面積 (ha)		地域内人口 (H27)		地域内世帯数 (H27)		市街化区域等面積 (ha)		市街化区域等人口 (H27)	
		割合		割合		割合		割合		割合
北部	1,651	7.9%	13,783	8.0%	4,979	7.8%	430	10.8%	0	0.0%
中部	6,083	29.0%	116,267	67.5%	44,664	70.0%	2,801	70.4%	83,224	65.1%
(都心エリア)	493	2.4%	19,223	11.2%	44,664	70.0%	493	12.4%	19,232	15.1%
北西部	4,271	20.4%	9,790	5.7%	3,270	5.1%	87	2.2%	25,085	19.6%
西部	5,870	28.0%	13,040	7.6%	4,176	6.5%	266	6.7%	10,817	8.5%
南部	3,083	14.7%	19,245	11.2%	6,725	10.5%	396	10.0%	8,627	6.8%
合計	20,957	100.0%	172,125	100.0%	63,814	100.0%	3,981	100.0%	127,753	100.0%

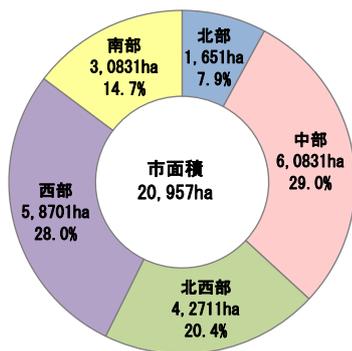


図 地域面積割合

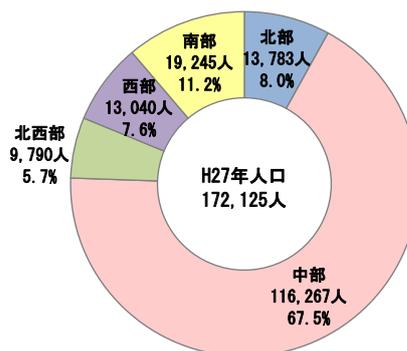
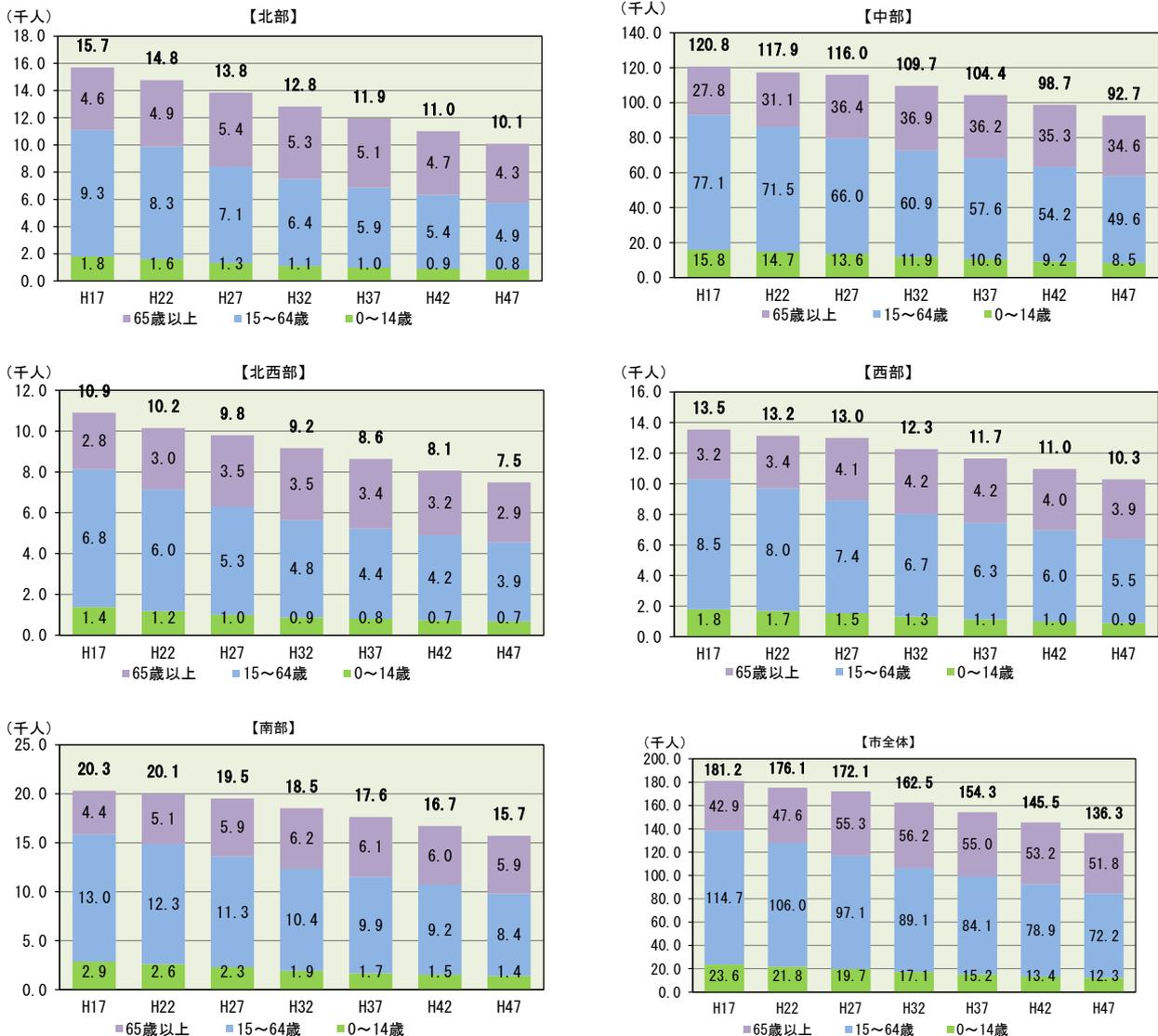


図 地域人口割合

## ② 人口の推移

- 北 部：平成 27 年現在約 13.8 千人が居住しており、今後 20 年間で 27.1%の人口減少が見込まれている（市内で最も大きい減少率）。平成 27 年現在の高齢化率は 39.3%であり、20 年後には 43.1%まで上昇する見込みとなっている。
- 中 部：平成 27 年現在約 116.0 千人が居住しており、今後 20 年間で 20.1%の人口減少が見込まれている。平成 27 年現在の高齢化率は 31.4%であり、20 年後には 37.4%まで上昇する見込みとなっている。
- 北西部：平成 27 年現在約 9.8 千人が居住しており、今後 20 年間で 23.6%の人口減少が見込まれている。平成 27 年現在の高齢化率は 35.7%であり、20 年後には 39.3%まで上昇する見込みとなっている。
- 西 部：平成 27 年現在約 13.0 千人が居住しており、今後 20 年間で 20.8%の人口減少が見込まれている。平成 27 年現在の高齢化率は 31.4%であり、20 年後には 37.9%まで上昇する見込みとなっている。
- 南 部：平成 27 年現在約 19.5 千人が居住しており、今後 20 年間で 19.5%の人口減少が見込まれている（市内では最も小さい減少率）。平成 27 年現在の高齢化率は 30.4%であり、20 年後には 37.6%まで上昇する見込みとなっている。



注：H17～H27 は国勢調査実績値、H32～H47 は社人研推計方法による推計値(趨勢値)

図 総人口及び年齢3区分別人口の推移 (H17～H47)

表 人口・高齢化率の変化（H27→H47）

地域	人口（千人）			高齢化率		
	H27	H47	H47/H27	H27	H47	H47-H27
北部	13.8	10.1	-27.1%	39.3%	43.1%	+3.8%
中部	116.0	92.7	-20.1%	31.4%	37.4%	+6.0%
北西部	9.8	7.5	-23.6%	35.7%	39.3%	+3.6%
西部	13.0	10.3	-20.8%	31.4%	37.9%	+6.6%
南部	19.5	15.7	-19.5%	30.4%	37.6%	+7.3%
合計	172.1	136.3	-20.8%	32.1%	38.0%	+5.8%

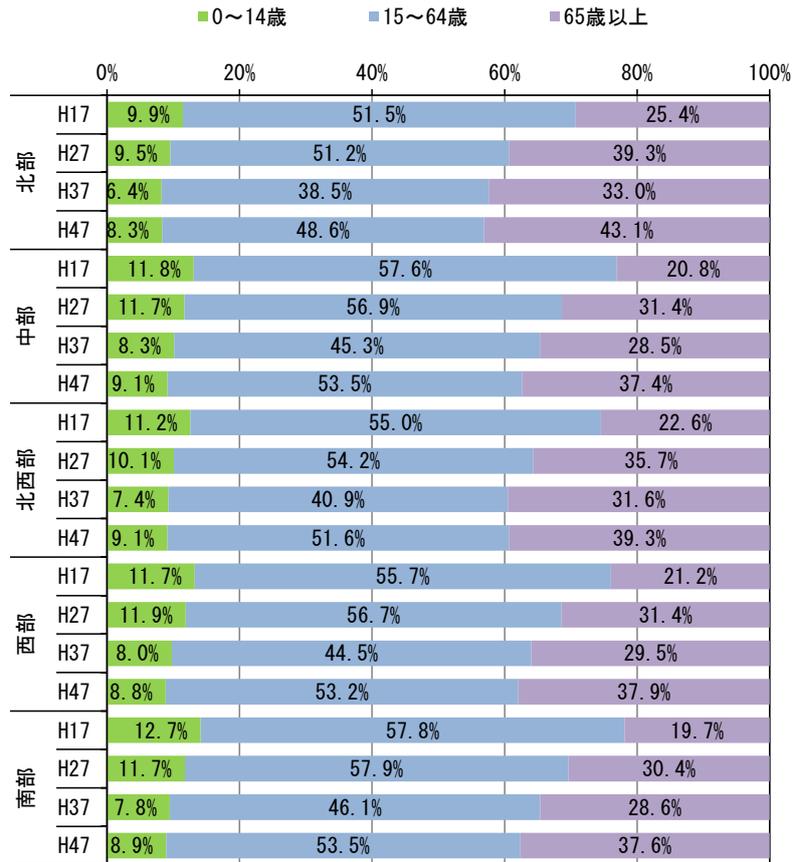
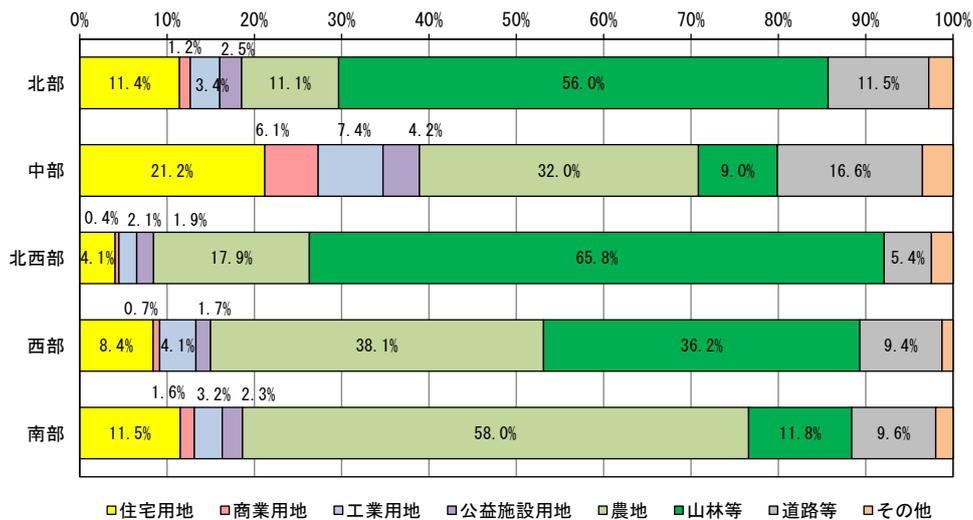


図 年齢構成割合の変化（H27→H47）

### ③ 土地利用

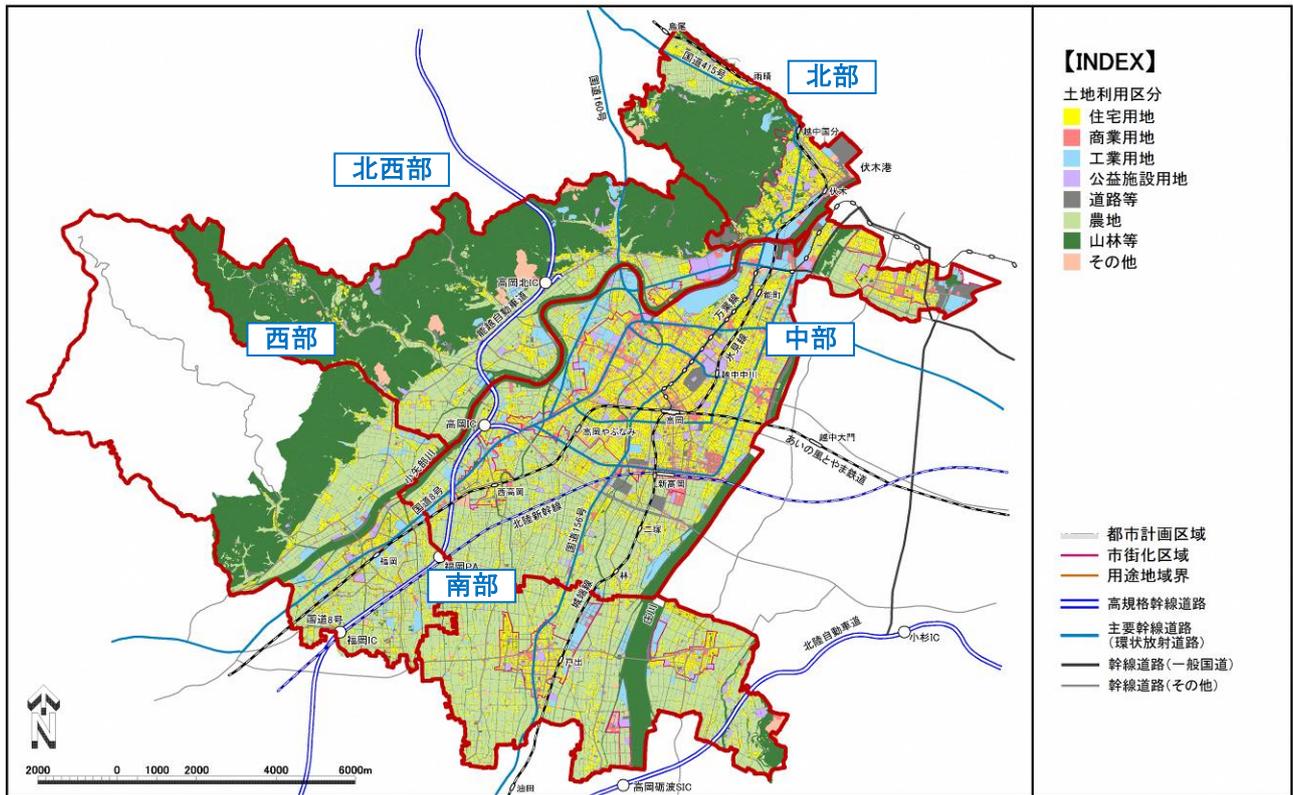
- 北 部：富山湾と小矢部川に面した限られた平坦地の背後に二上山の丘陵地が迫る地形であり、市街化区域内の一部にも山林が分布している。地域の約 56%は山林等が占めており、他地域と比べて農地が占める割合が少ない。
- 中 部：小矢部川及び庄川によって形成されたほぼ平坦な地形であり、宅地及び道路等の都市的土地利用（住宅用地、商業用地、工業用地、公益施設用地、道路等）が地域の約 56%を占めている。地域の約 32%を占める農地は市街化調整区域にまとまって分布するほか、市街化区域の縁辺部にも多く分布している。長い歴史を有するまちなかには狭隘な道路と密集した市街地が分布している。
- 北西部：西山丘陵地の山林等と小矢部川沿いの農地が大半を占めており、特に山林等は地域の約 66%を占めている。IC 周辺の工業団地開発も進められたが、5 地域中では最も宅地が少なく、住宅・商業・工業の全てを合計しても地域面積の 7%に満たない。
- 西 部：西山丘陵地の山林等と小矢部川沿いの農地が大半を占めており、都市計画区域外の山林も含めると山林等が地域の約 70%を占めている。用途地域内に農地をはじめとする低未利用地が多く残っているため、高岡の市街化区域と比較して低密度な市街地となっている。
- 南 部：庄川によって形成されたほぼ平坦な地形であるが、東側には御坊山の丘陵地が広がっている。土地区画整理事業等の面整備によって住宅用地や工業用地が増加しているが、現在も地域の約 58%を農地が占めている。



注：西部は都市計画区域外を含まない面積  
 道路等＝道路用地・交通施設用地、公共空地  
 農地＝田・畑・果樹園  
 山林等＝山林・水面・その他の自然地  
 その他＝その他の空地・農林業施設用地

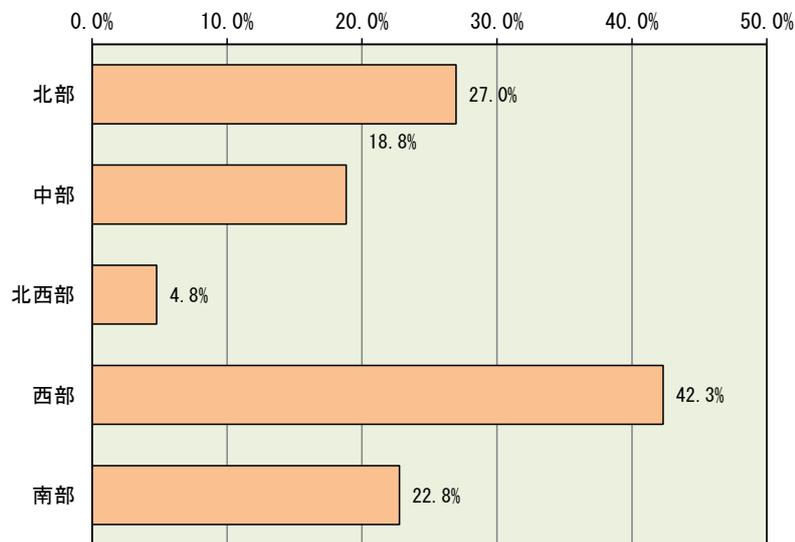
(資料：都市計画基礎調査 (H25))

図 土地利用面積構成



(資料：都市計画基礎調査 (H25))

図 土地利用現況



注：低未利用地＝田・畑・果樹園・山林・水面・その他の自然地・その他の空地

(資料：都市計画基礎調査 (H25))

図 用途地域内低未利用地割合

#### ④ 都市交通

- 北 部：国道 415 号によって中心市街地や氷見市方面と結ばれているほか、主要地方道小矢部伏木港線によって北西部地域と結ばれている。また、伏木港に連絡する主要地方道伏木港線が市街地の骨格を形成している。地域内には JR 氷見線の伏木駅・越中国分駅・雨晴駅が設置されているが、過去 10 年間で 3 駅とも利用者数は大きく減少している。
- 中 部：内環状及び外環状道路が市街地の骨格を形成し、そこから延びる 5 つの放射状道路によって牧野・立野の周辺市街地のほか他の 4 地域と結ばれている。また、能越自動車道の高岡 IC が開設されており、IC へのアクセス道路となる地域高規格道路の整備が検討されている。高岡駅を結節点として、JR 氷見線及び城端線、あいの風とやま鉄道、万葉線が放射状に延びており、周辺地域及び周辺都市を結ぶネットワークが形成されている。高岡駅～新高岡駅間や内環状線内はバスの運行も多く、公共交通を利用しやすい環境が整備されている。
- 北西部：国道 160 号によって中心市街地や氷見市方面と結ばれているほか、能越自動車道へのアクセス道路でもある主要地方道小矢部伏木港線によって北部地域及び西部地域と結ばれている。地域内を能越自動車道が縦断しており、中心市街地や伏木港から高岡北 IC へのアクセス性を向上するための戦略的道路が検討されている。地域内には鉄軌道はなく、公共交通ネットワークは高岡駅方面及び氷見市方面と連絡するバスによって形成されている。
- 西 部：国道 8 号が市街地の骨格を形成するとともに、中心市街地や小矢部市方面を結ぶ道路となっている。能越自動車道の福岡 IC と福岡 PA が開設されており、福岡 PA については IC 設置に向けた取組が進められている。地域内にはあいの風とやま鉄道の福岡駅が設置されているが、過去 10 年間で利用者数は減少している。その他、山間部については、福岡庁舎を起点とする公営バスが運行されている。
- 南 部：南北方向の国道 156 号と主要地方道新湊庄川線、東西方向の主要地方道富山戸出小矢部線が市街地の骨格を形成しており、これら道路によって中心市街地や西部地域、さらに砺波市方面と結ばれている。地域内には JR 城端線の戸出駅が設置されており、過去 10 年間で利用者数は横ばいで推移している。中田の市街地には鉄軌道はなく、高岡駅方面と連絡するバスによって公共交通ネットワークが形成されている。

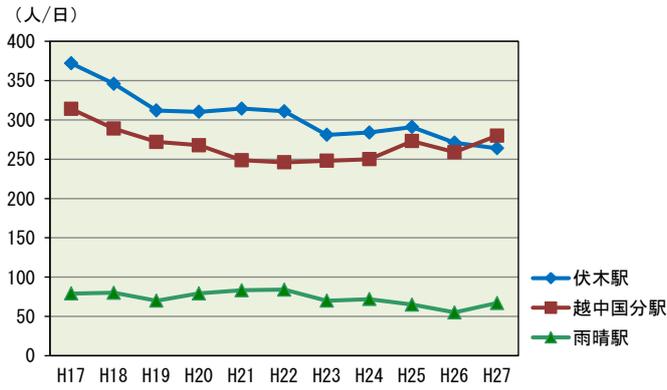
表 地域内鉄軌道利用状況

地域	路線	駅名	上下運行 本数 (H29時 点)	利用者数 (人/日)				増減 (H27-H17)	
				H17		H27		全体	定期
					うち定期		うち定期		
北部	○JR氷見線	伏木駅	37	372	258	264	203	-108	-55
		越中国分駅	37	314	309	280	276	-34	-33
		雨晴駅	37	79	48	67	36	-12	-12
中部	○北陸新幹線	新高岡駅	68	—	—	1,929	—	—	—
		高岡駅	75	8,188	4,552	8,267	5,709	79	1,157
	○あいの風とやま鉄道	高岡やぶなみ駅	—	(今後開設予定)				—	—
		西高岡駅	57	581	452	597	479	16	27
	○JR氷見線	越中中川駅	37	1,210	1,118	1,234	1,159	24	41
		能町駅	37	153	124	201	175	48	51
	○JR城端線	二塚駅	43	64	45	42	35	-22	-10
		林駅	43	31	29	22	21	-9	-8
○万葉線	路線全体	122	3,100	1,019	3,200	1,274	100	255	
北西部				(鉄軌道なし)					
西部	○あいの風とやま鉄道	福岡駅	57	1,207	976	1,041	837	-166	-139
南部	○JR城端線	戸出駅	43	871	751	870	769	-1	18

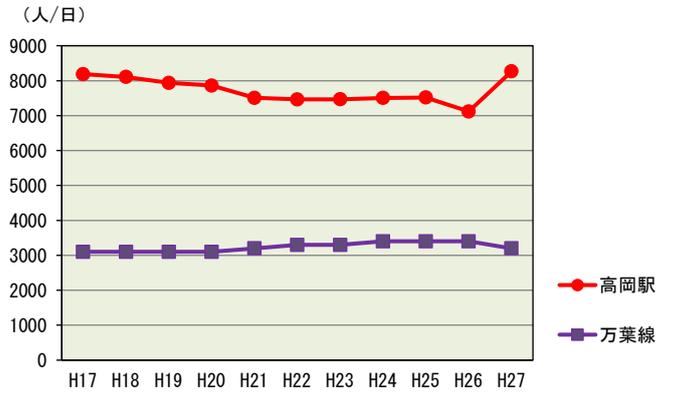
注：H27 高岡駅については、あいの風とやま鉄道と JR の合計

(資料：高岡市統計書)

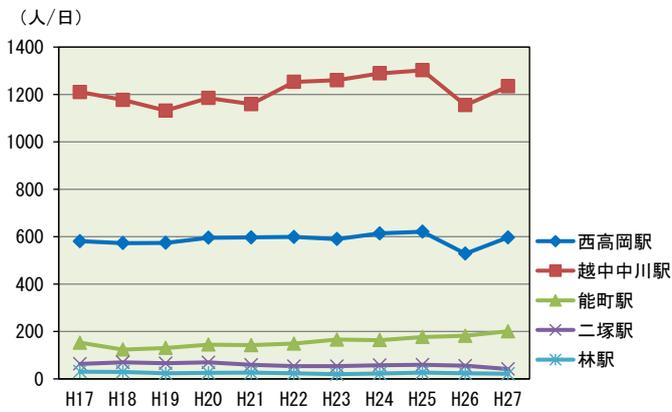
【北部地域内の鉄道利用者数推移】



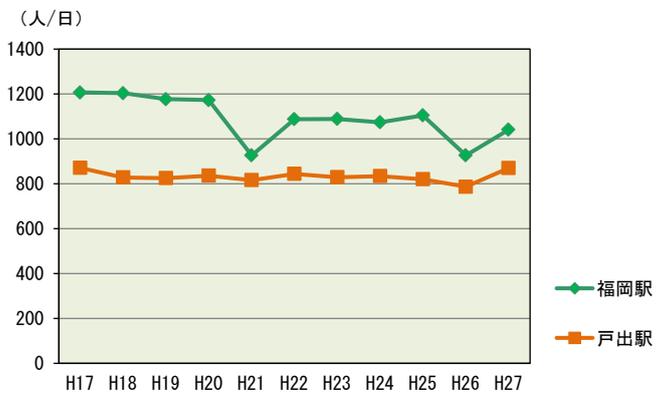
【中部地域内の高岡駅・万葉線利用者数推移】



【中部地域内のその他鉄道駅利用者数推移】



【西部・南部地域内の鉄道利用者数推移】

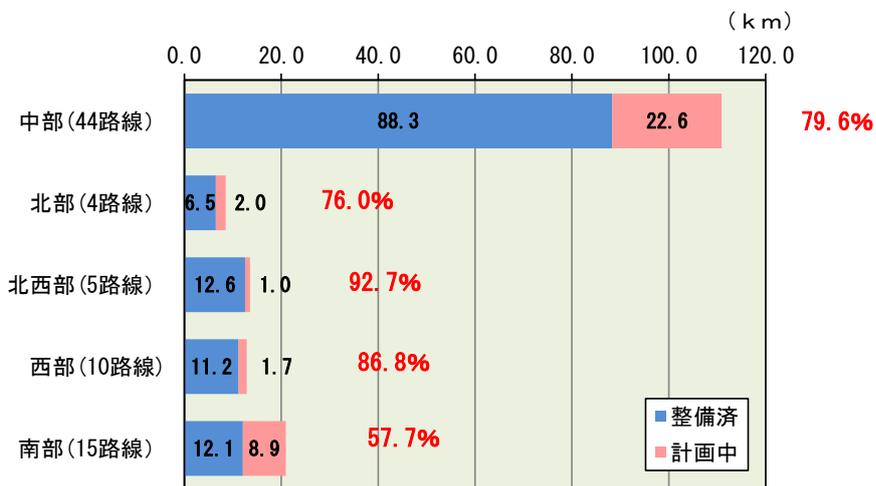


(資料：高岡市統計書)

図 地域別鉄道駅利用者数の推移

### ⑤ 都市施設

- 北 部：地域内の都市計画道路改良率は約 76%であるが、今後 10 年の間に整備着手が予定されている路線はない。下水道は、小矢部川沿いの工業系用途地域と太田処理区の一部を除き概ね整備完了となっている。
- 中 部：地域内の都市計画道路改良率は約 80%となっており、今後、環状放射道路を含む 9 路線で整備を行う予定となっている。また、今後、牧野河川公園の整備を行う予定となっている。下水道は、小矢部川及び庄川沿いの工業系用途地域の一部を除き概ね整備完了となっている。
- 北西部：地域内の未整備路線は 1 路線のみであり、都市計画道路改良率は約 93%となっている。なお、未整備路線については、今後 10 年の間での整備着手は予定されていない。下水道は、全て整備完了となっている。
- 西 部：地域内の未整備路線は 2 路線のみであるが、2 路線とも今後 10 年で整備着手が予定されており、これらの整備が完了すれば改良率は 100%となる。下水道は、全て整備完了となっている。
- 南 部：地域内の都市計画道路改良率は、5 地域中最も低い約 58%となっている。今後 10 年の間に整備着手が予定されている路線は 1 路線のみであり、長期未着手都市施設の見直しが必要となっている。下水道は工業系用途地域の一部を除き概ね整備完了となっている。



注：%は改良率、整備済・計画中の延長は GIS による測定値

(資料：都市計画基礎調査 (H25))

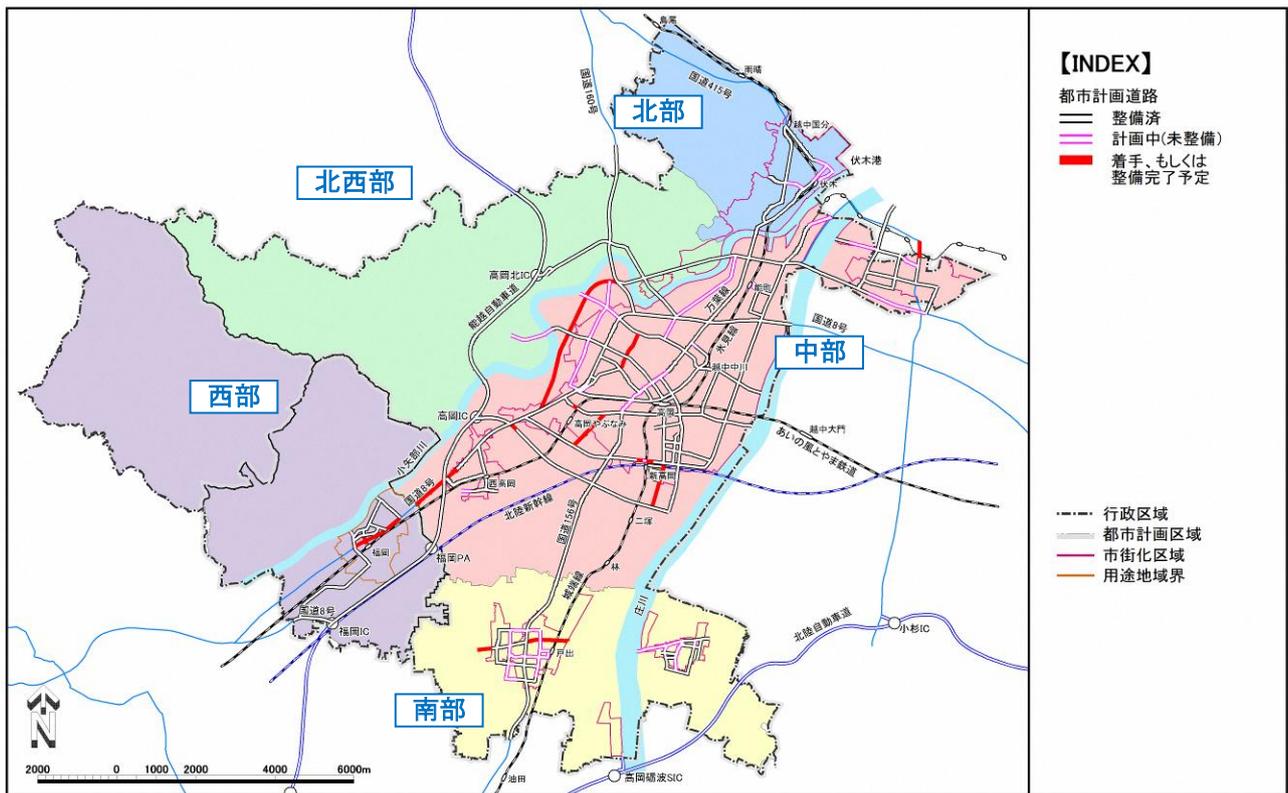
図 都市計画道路の改良率 (H25)



注：北部と北西部にまたがる二上山公園、城光寺公園の供用済面積は各地域内の計画面積により按分

(資料：富山県の都市計画 (資料編))

図 住民 1 人あたりの都市計画公園緑地 (供用済) 面積 (H28)

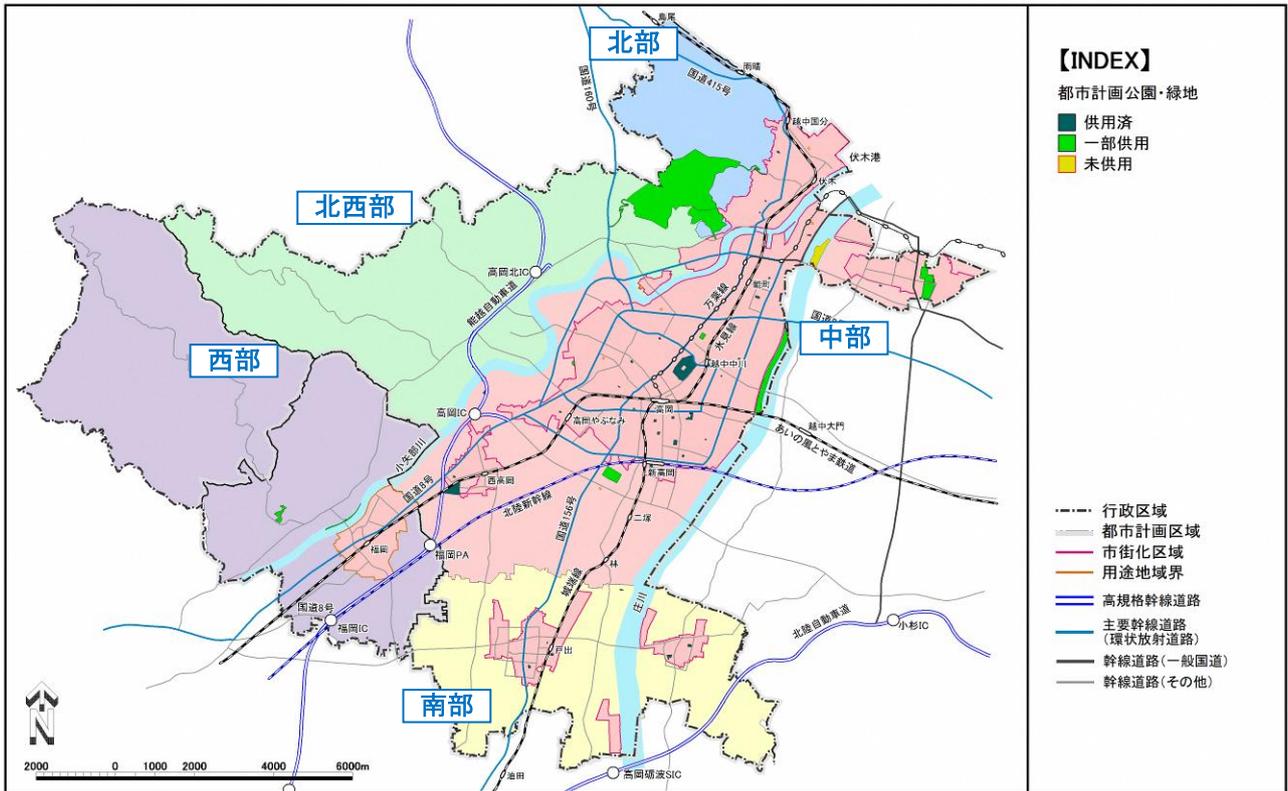


(資料：都市計画基礎調査 (H25))

図 都市計画道路整備状況 (H25)

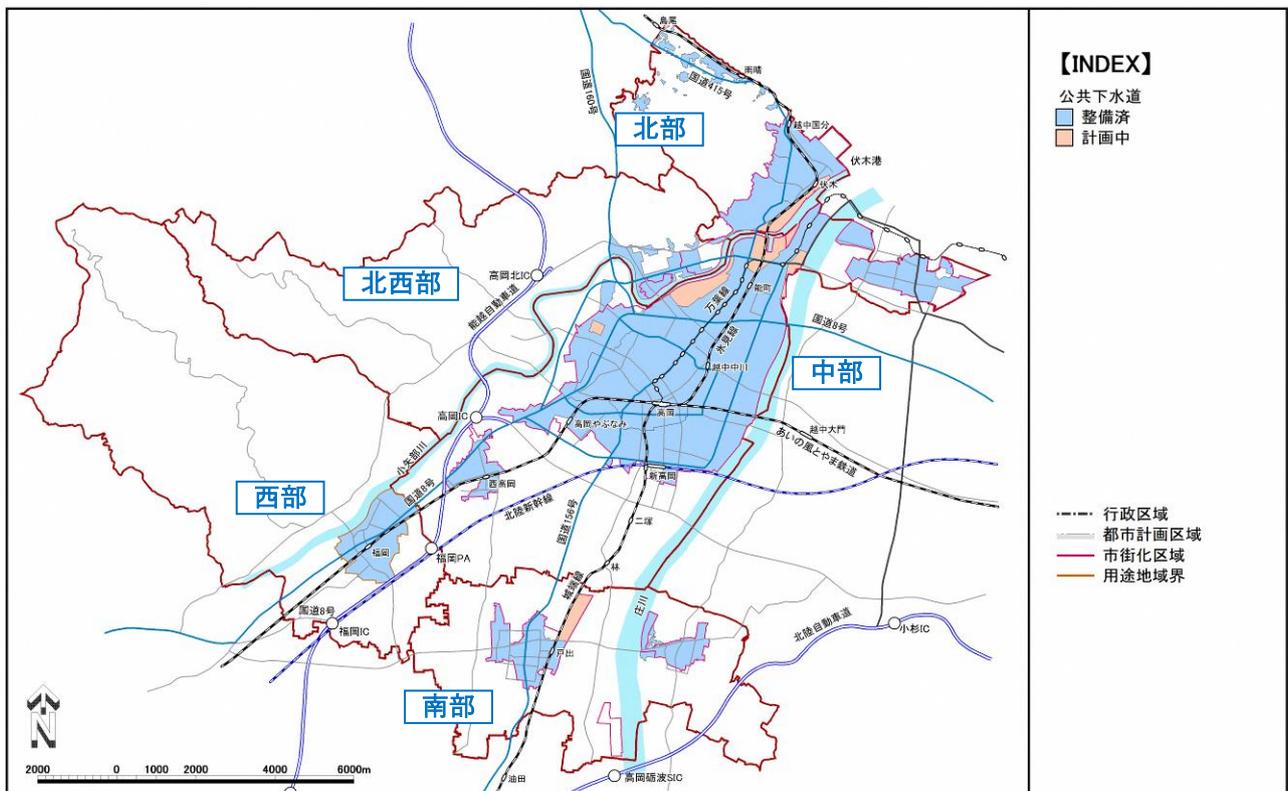
表 今後 10 年以内整備予定施設

地域	10 年以内整備施設
北部	なし
中部	○都市計画道路 3・1・446 高岡環状南線 3・4・122 北島牧野作道線 3・4・413 下伏間江福田線 3・4・409 中川和田線 3・3・405 立野四屋線 3・3・406 下関京田二塚線 3・4・119 中新湊姫野線 3・4・418 木津佐野線 3・5・423 羽広内免線 ○都市計画公園 5・5・405 牧野河川公園
北西部	なし
西部	○都市計画道路 3・5・1 国道線 3・4・2 駅前線 (駅前広場を含む)
南部	○都市計画道路 3・4・426 戸出東西中央線



(資料：富山県の都市計画 (資料編))

図 都市計画公園緑地整備状況 (H28)



(資料：都市計画基礎調査 (H25))

図 公共下水道整備状況 (H25)

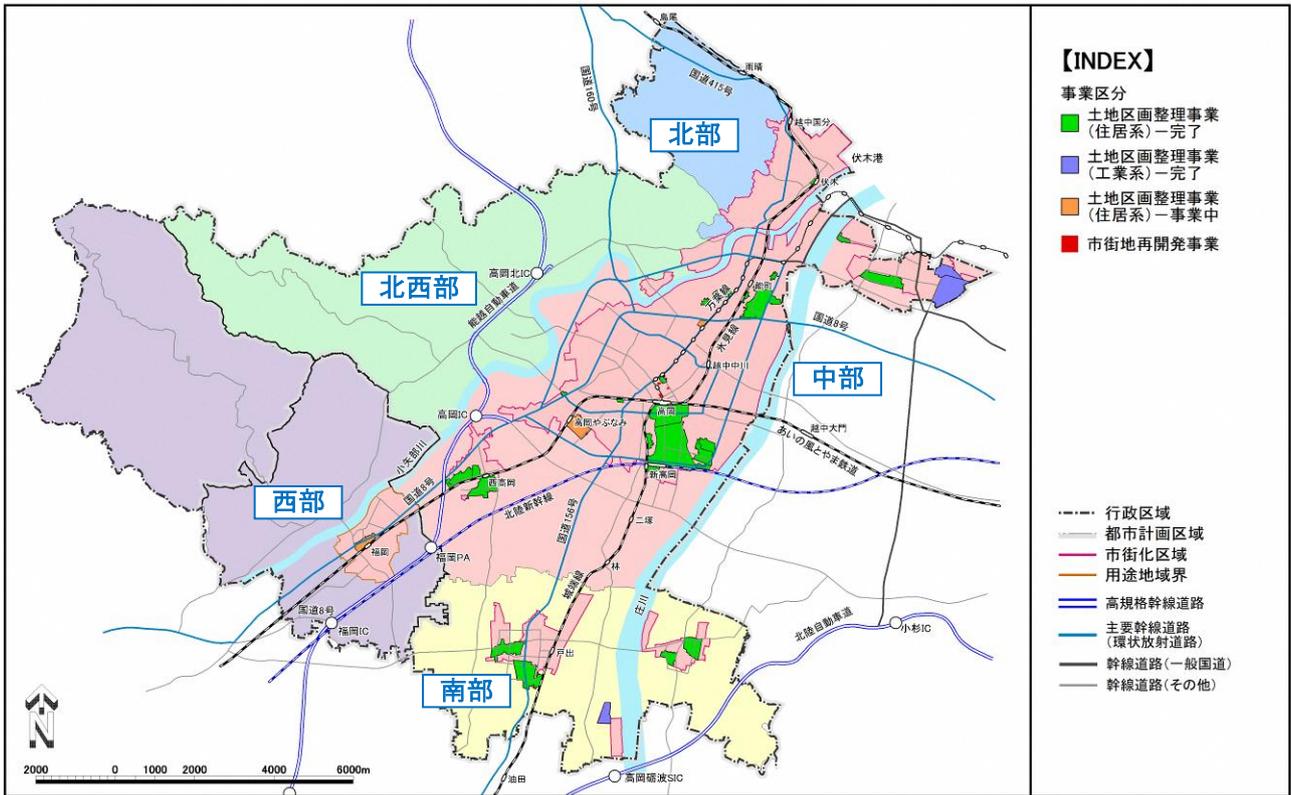


図 市街地開発事業実施状況 (H29)

## ⑥ 経済活動

- 北 部：伏木外港では、総合拠点港を目指した整備が進められており、伏木港周辺が今後積極的に産業集積を図る企業団地に位置づけられている。地域内にまとまった商業地はなく、伏木駅前や国道 416 号沿道を中心に小規模な店舗が点在して立地している。
- 中 部：小矢部川沿いに大規模な企業団地が集積するほか、富山港湾の工業専用地域と高岡 IC 付近の池田工業団地が今後積極的に産業集積を図る企業団地に位置づけられている。主な商業地としては、7つの商店街からなる「たかまち商店街」のほか、新高岡駅周辺や国道 8 号沿道に大型ショッピングセンターや沿道型商業施設が集積している。
- 北西部：小矢部川沿いや高岡北 IC 周辺に大規模な企業団地が集積しており、今後積極的に産業集積を図る企業団地として高岡北 IC 周辺の 4 つの企業団地（二上工業団地、岩坪工業団地、手洗野工業団地、四日市工業団地）が位置づけられている。地域内にはまとまった商業地はなく、大規模な小売店舗もない状態となっている。
- 西 部：国道 8 号沿道に大規模な企業団地が集積するほか、福岡 IC 付近の大滝工業団地が今後積極的に産業集積を図る企業団地に位置づけられている。地域内にまとまった商業地はなく、国道 8 号沿道にスーパーや沿道型商業施設が点在して立地している。
- 南 部：小矢部川沿いを中心に大規模な企業団地の整備が行われ、これら 4 つの企業団地（戸出工業団地、高岡機械工業センター、戸出西部金屋工業団地、中田上麻生工業団地）が今後積極的に産業集積を図る企業団地に位置づけられている。戸出と中田それぞれに商業地が形成され、国道 156 号沿道など幹線道路沿いにスーパーや沿道型商業施設が点在して立地している。

表 積極的に産業集積を図る工業・企業団地

地域	積極的に産業集積を図る工業・企業団地（県企業立地促進計画の重点地域）
北部	・伏木万葉ふ頭港湾地域
中部	・富山新港臨海工業地帯 ・池田工業団地
北西部	・二上工業団地 ・岩坪工業団地 ・手洗野工業団地 ・四日市工業団地
西部	・大滝工業団地
南部	・戸出工業団地 ・高岡機械工業センター ・戸出西部金屋工業団地 ・中田上麻生工業団地



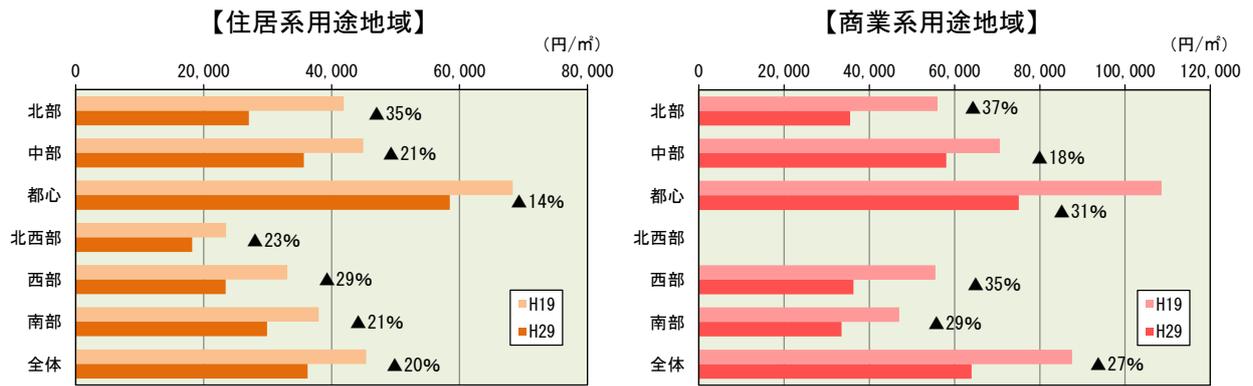
⑦ 地価動向

- 北 部：住宅地の平均地価の過去 10 年間の下落率は市内で最も大きく、H29 時点で約 2.7 万円/㎡となっている（5 地域中 3 位）。また、商業地についても市内で最も下落率が大きく、H29 時点で約 3.6 万円/㎡となっている（北西部以外の 4 地域中 3 位）。
- 中 部：住宅地の平均地価の過去 10 年間の下落率は市内で最も小さく、H29 時点で約 3.6 万円/㎡となっている（5 地域中 1 位）。特に都心エリア内の住宅地は、H29 時点で約 5.9 万円/㎡と比較的高い水準が維持されている。商業地については、都心エリアでは下落率が大きいがその他の中部地域では比較的小さい下落率となっている。
- 北西部：住宅地の平均地価は市内で最も低く、H29 時点で約 1.8 万円/㎡となっている（5 地域中 5 位）。
- 西 部：住宅地と商業地ともに平均地価の過去 10 年間の下落率は北部地域に次いで大きく、H29 時点で住宅地が約 2.3 万円/㎡（5 地域中 4 位）、商業地が 3.6 万円/㎡となっている（北西部以外の 4 地域中 2 位）。
- 南 部：住宅地の平均地価の過去 10 年間の下落率は中部に次いで小さく、H29 時点で約 3.0 万円/㎡となっている（5 地域中 2 位）。商業地は、10 年間の下落率は他地域よりも少ないが、H29 時点の 3.4 万円/㎡は北西部以外の 4 地域中では最も低い水準となっている。

表 平均地価の変化 (H19→H29)

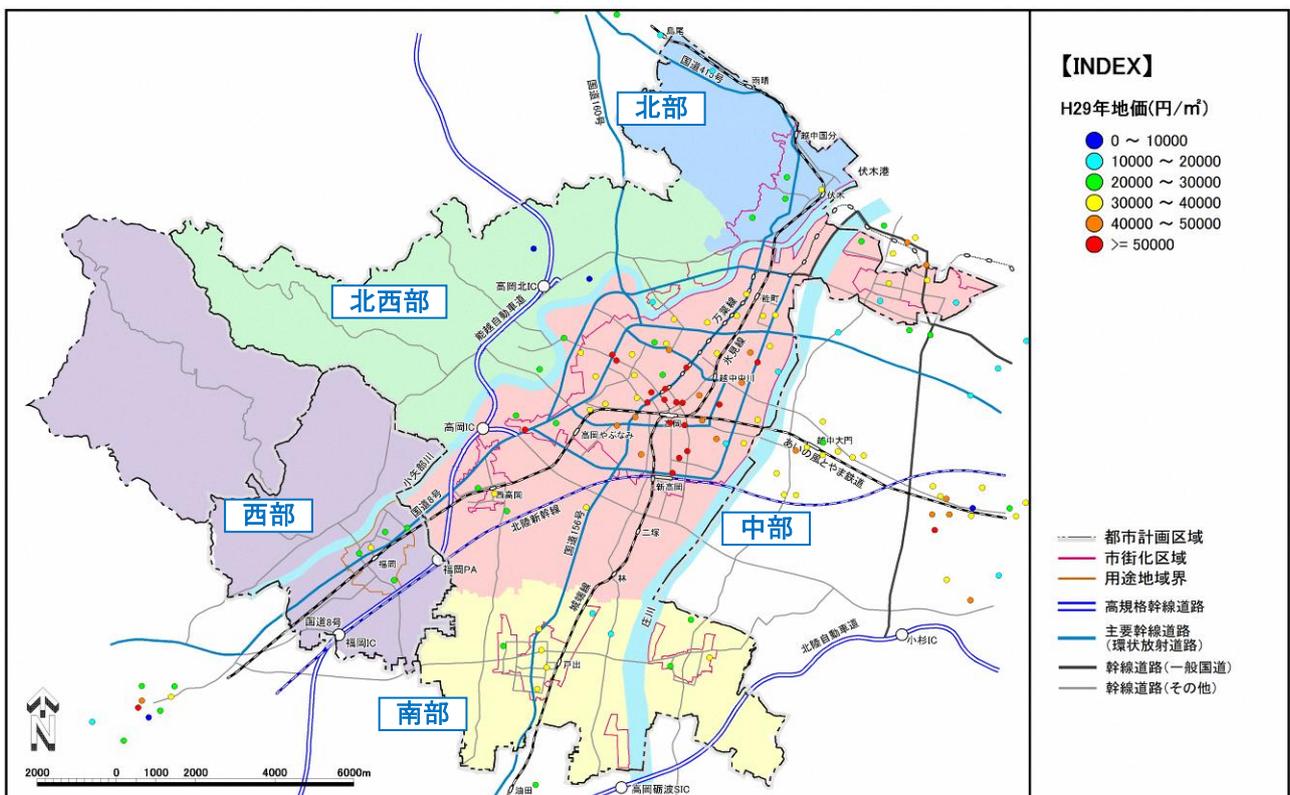
地域	用途区分	H19		H29		増減率 (H19→ H29)
		調査地点 数	平均地価 (円/㎡)	調査地点 数	平均地価 (円/㎡)	
北部	住居	4	41,900	3	27,067	▲ 35.4
	商業	1	56,000	1	35,500	▲ 36.6
	工業	0	—	0	—	—
	調整区域	1	16,400	1	13,000	▲ 20.7
	地域計	6	40,000	5	25,940	▲ 35.2
中部 (都心除く)	住居	32	44,941	30	35,653	▲ 20.7
	商業	5	70,600	4	58,075	▲ 17.7
	工業	9	49,833	6	42,900	▲ 13.9
	調整区域	5	31,460	5	24,120	▲ 23.3
	地域計	51	46,998	45	37,331	▲ 20.6
都心エリア	住居	6	68,333	6	58,500	▲ 14.4
	商業	9	108,556	10	75,050	▲ 30.9
	工業	1	47,000	3	76,900	▲ 63.6
	調整区域	0	—	0	—	—
	地域計	16	89,625	19	70,116	▲ 21.8
北西部	住居	1	23,500	1	18,200	▲ 22.6
	商業	0	—	0	—	—
	工業	1	16,600	0	—	—
	調整区域	3	19,993	3	7,368	▲ 63.1
	地域計	5	20,016	4	10,076	▲ 49.7
西部	住居	4	33,075	3	23,433	▲ 29.2
	商業	1	55,500	1	36,300	▲ 34.6
	工業	1	38,000	1	28,300	▲ 25.5
	調整区域	0	—	0	—	—
	地域計	6	37,633	5	26,980	▲ 28.3
南部	住居	5	37,980	5	29,920	▲ 21.2
	商業	1	47,000	1	33,500	▲ 28.7
	工業	2	34,750	2	25,050	▲ 27.9
	調整区域	2	26,500	2	20,150	▲ 24.0
	地域計	10	35,940	10	27,350	▲ 23.9
全体	住居	52	45,412	48	36,248	▲ 20.2
	商業	17	87,559	17	64,006	▲ 26.9
	工業	14	44,257	12	47,208	▲ 6.7
	調整区域	11	26,062	11	17,818	▲ 31.6
	地域計	94	50,598	88	40,801	▲ 19.4

注：都心エリアの H29 の工業地には新高岡駅周辺の準工を含んでいる  
(資料：地価公示、都道府県地価調査)



(資料：地価公示 (H29)、都道府県地価調査 (H29))

図 用途地域別平均地価の変化 (H19→H29)



(資料：地価公示 (H29)、都道府県地価調査 (H29))

図 地価分布

## ⑧ 災害危険性

- 北 部：急峻な地形が多く分布しているため、市街化区域内の丘陵地も含めて土砂災害の危険性があるエリアが広く分布している。また、富山湾に面する伏木の港湾部が津波浸水想定区域となっている。歴史的町並みを持つ伏木の市街地では、地震時の建物全壊率が高くなっている。
- 中 部：平坦な地形のため土砂災害の危険性はないが、小矢部川や庄川の洪水により浸水深2m以上となるエリアが市街化区域にも分布している。また、富山湾に面する牧野地区の沿岸部は津波浸水想定区域となっているほか、内水の危険性も高くなっている。中心市街地をはじめとする広い範囲で地震時の建物全壊率が高くなっている。
- 北西部：市街化調整区域の丘陵地には土砂災害の危険性があるエリアが広く分布している。また、小矢部川沿いの市街地及び田園地帯には、洪水により浸水深2m以上となるエリアや、内水の危険性のあるエリアが広く分布しているほか、地震時の建物全壊率が高い地域が広く分布している。
- 西 部：用途地域内には災害危険性があるエリアは確認されていないが、背後の丘陵地には土砂災害の危険性があるエリアが広く分布している。洪水による想定浸水深は2m未満となっている。福岡駅周辺をはじめとする広い範囲で地震時の建物全壊率が高くなっている。
- 南 部：市街化区域には災害危険性があるエリアは確認されていないが、地域東側の御坊山丘陵地には土砂災害の危険性があるエリアがあるほか、庄川沿いの田園地帯では洪水により浸水深2m以上となるエリアも分布している。地震時の建物全壊率は全域で低くなっている。

表 主な災害危険性

地域	地域内の災害危険性
北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○津波（津波浸水想定区域） <ul style="list-style-type: none"> <li>・伏木の万葉埠頭付近</li> </ul> </li> <li>○土砂災害（土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域） <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街化区域内に分布</li> </ul> </li> <li>○内水（想定浸水深45cm以上） <ul style="list-style-type: none"> <li>・伏木駅前や小矢部川支流の一部に分布</li> </ul> </li> <li>○地震時の建物全壊率 <ul style="list-style-type: none"> <li>・伏木駅周辺に建物全壊率30%以上のエリアが分布</li> </ul> </li> </ul>
中部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○津波（津波浸水想定区域） <ul style="list-style-type: none"> <li>・牧野の射水市境界付近</li> </ul> </li> <li>○洪水（想定浸水深2m以上） <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街化区域内に広く分布</li> </ul> </li> <li>○内水（想定浸水深45cm以上） <ul style="list-style-type: none"> <li>・牧野の市街地内と中心市街地の一部に分布</li> </ul> </li> <li>○地震時の建物全壊率 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地や立野に建物全壊率30%以上のエリアが分布、山町筋・金屋町付近は建物全壊率40%以上</li> </ul> </li> </ul>
北西部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土砂災害（土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域） <ul style="list-style-type: none"> <li>・西側丘陵地（市街化調整区域）に分布</li> </ul> </li> <li>○洪水（想定浸水深2m以上） <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街化調整区域の一部に分布</li> </ul> </li> <li>○内水（想定浸水深45cm以上） <ul style="list-style-type: none"> <li>・小矢部川沿いの二上周辺に広く分布</li> </ul> </li> <li>○地震時の建物全壊率 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小矢部川沿いの市街地や集落地に建物全壊率30%以上のエリアが広く分布</li> </ul> </li> </ul>

表 主な災害危険性（続き）

地域	地域内の災害危険性
西部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土砂災害（土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・西側丘陵地（用途地域外）に分布</li> </ul> </li> <li>○内水（想定浸水深 45cm 以上）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・牧野の市街地内と中心市街地の一部に分布</li> </ul> </li> <li>○地震時の建物全壊率                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地や集落地に建物全壊率 30%以上のエリアが広く分布、福岡駅周辺は建物全壊率 40%以上</li> </ul> </li> </ul>
南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土砂災害（土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・東側丘陵地（市街化調整区域）に分布</li> </ul> </li> <li>○洪水（想定浸水深 2 m以上）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街化調整区域の一部に分布</li> </ul> </li> <li>○内水（想定浸水深 45cm 以上）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸出の市街地内の一部に分布</li> </ul> </li> <li>○地震時の建物全壊率                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ全域が建物全壊率 10%未満</li> </ul> </li> </ul>

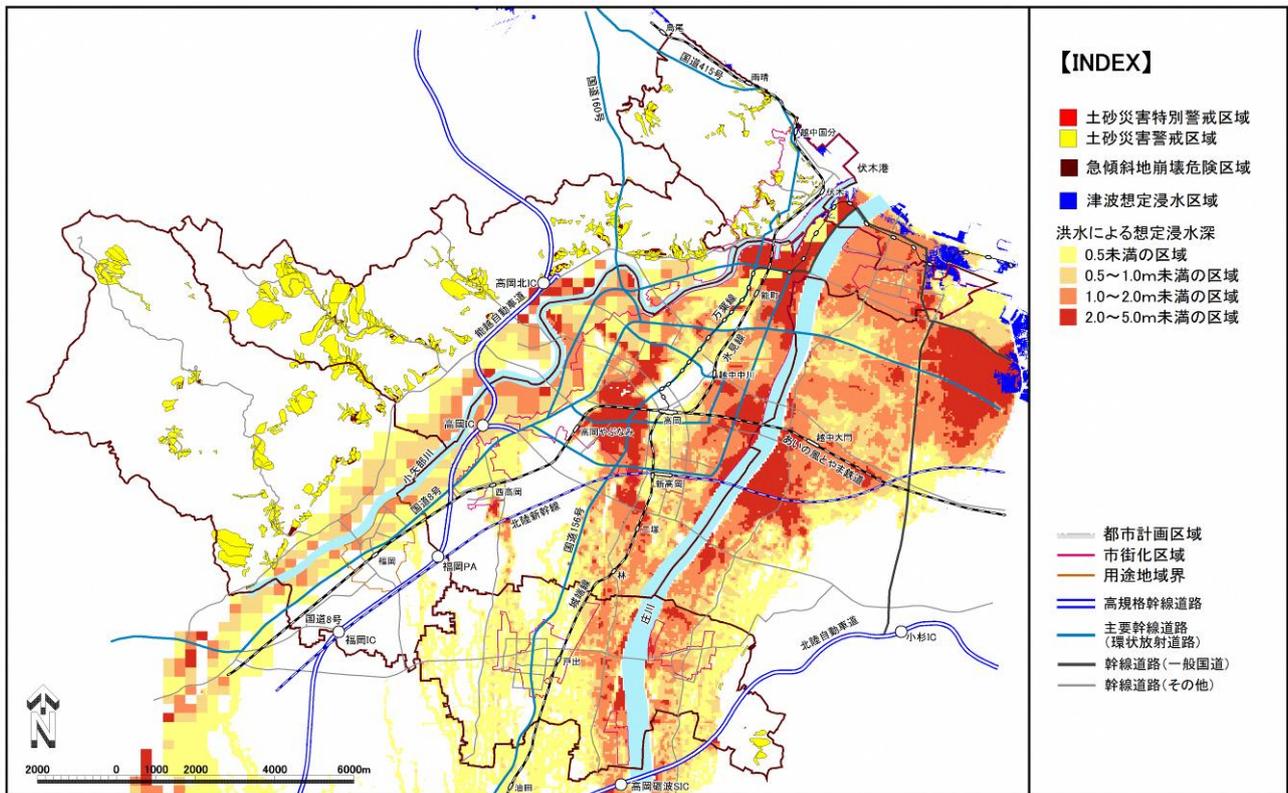


図 土砂災害・洪水・津波浸水の危険性のあるエリア

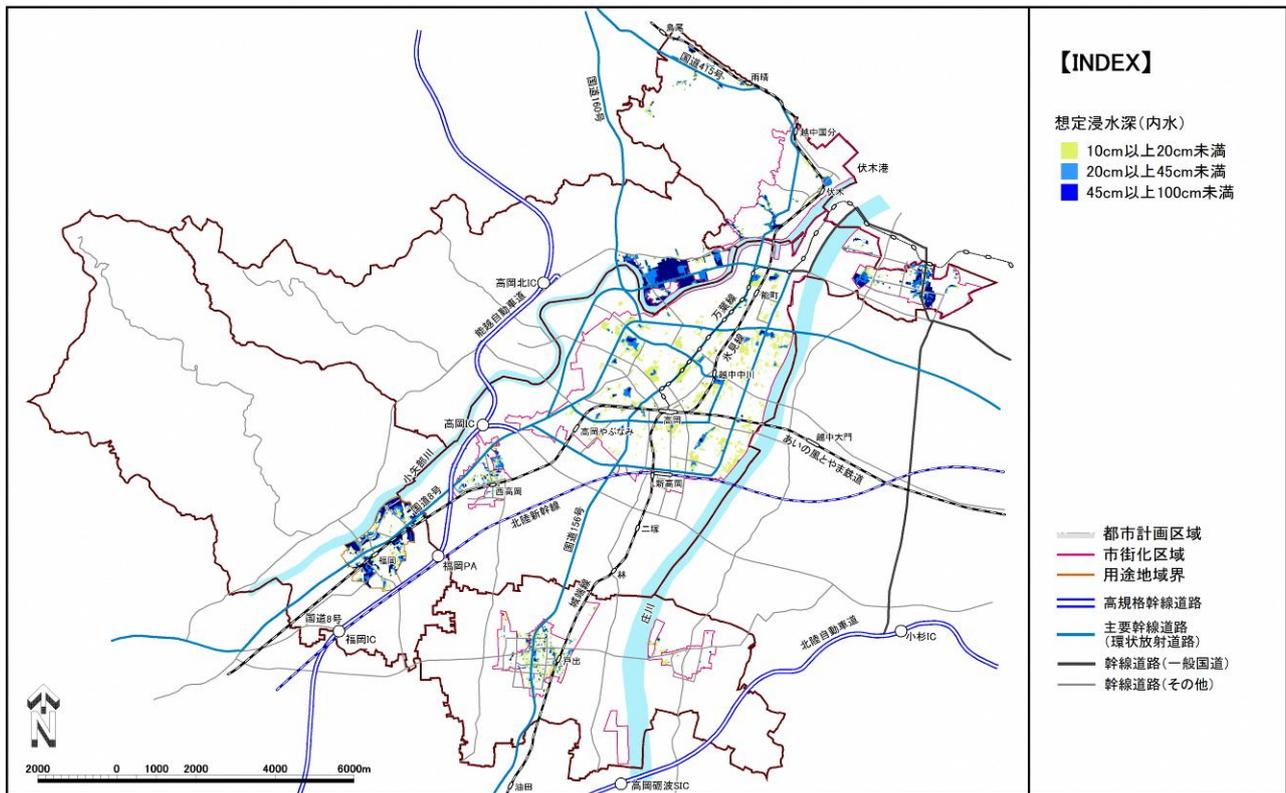


図 内水の危険性のあるエリア

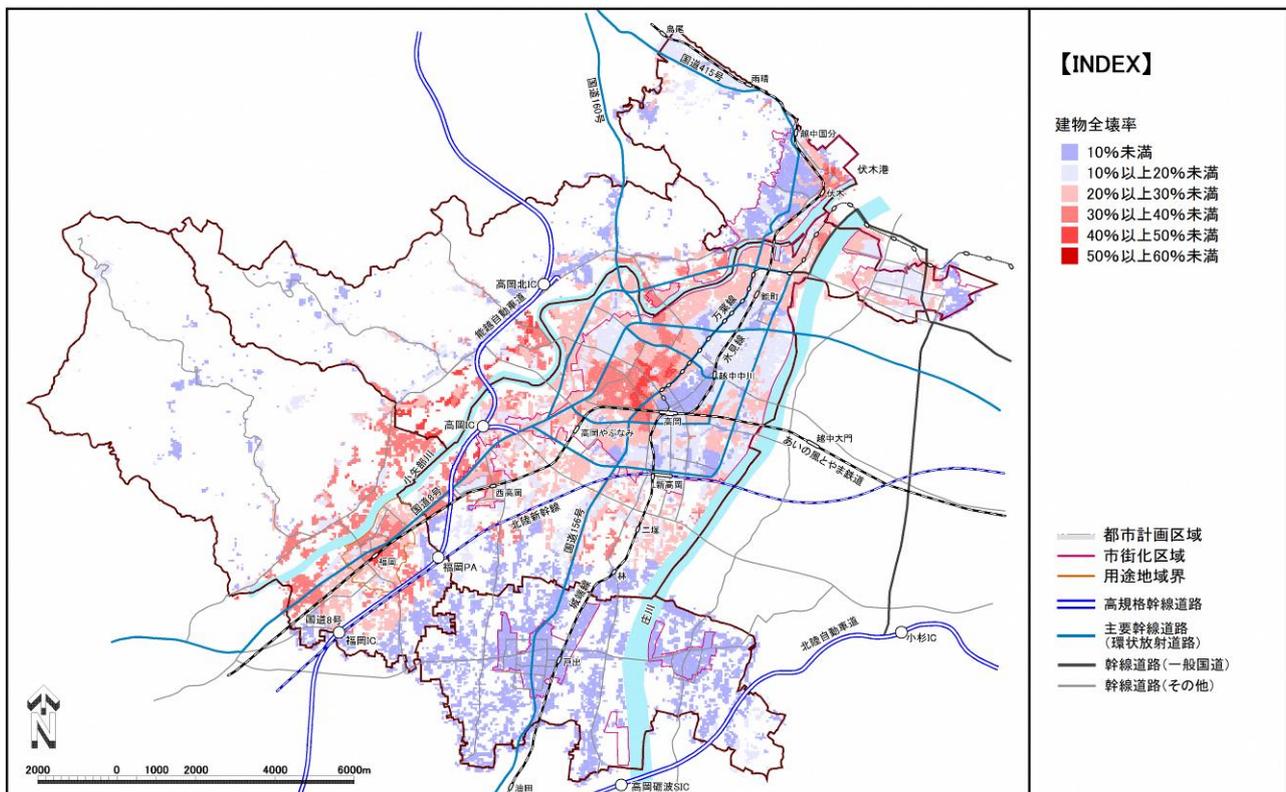


図 建物全壊率

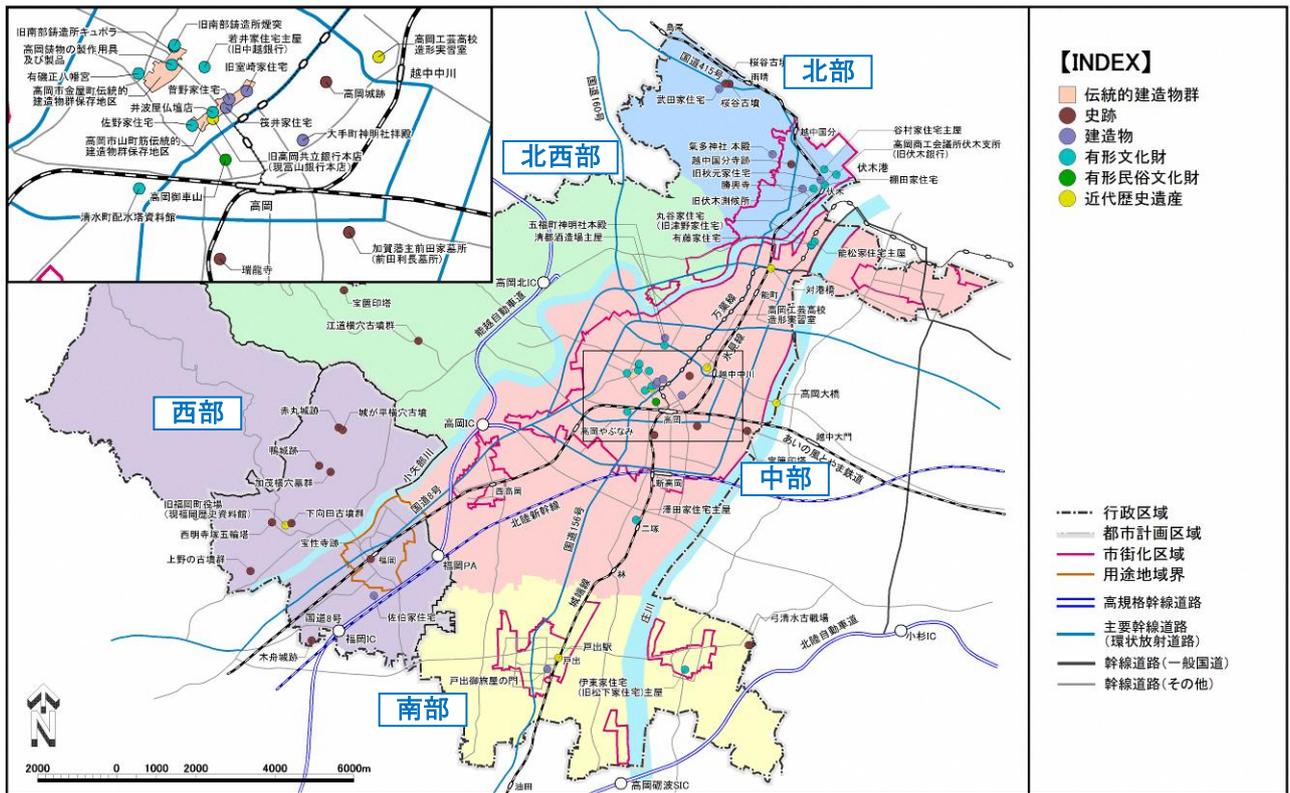
## ⑨ 歴史・文化資産

- 北 部：本地区は、昭和 17 年に合併された旧伏木村と昭和 28 年に合併した旧太田村によって構成されている。奈良時代の越中国府が置かれた地域であることから、歌人・大伴家持の赴任先として雨晴海岸をはじめ万葉の歴史が多く残されている。また、小矢部川の舟運と結びついた港町として発展してきた歴史を持ち、伏木・吉久に残る伝統的建造物は、歴史まちづくり計画の重点区域に位置づけられている。
- 中 部：本地区は、明治 22 年に市政施行された旧高岡市を中心として、昭和 30 年頃までに合併された周辺町村によって構成されている。高岡城跡及び城下町の町並みなど前田家ゆかりの歴史資産が多く分布しているほか、銅鑄物や漆器の伝統工芸（工房等）が集積している。山町筋・金屋町の町並みは重要伝統的建造物群保存地区に指定されているほか、風致地区に指定された高岡城跡や瑞龍寺、旧北陸道の往来地区と一体的に歴史まちづくり計画の重点区域に位置づけられている。
- 北西部：本地区は、戦前から戦後にかけて合併された旧二上村・旧国吉村・旧石堤村・旧守山村によって構成されている。西山丘陵地は縄文時代から人々が居住しており、遺跡や古墳が各地に残されている。また、戦国時代には山城や平城がこの地域に築城された歴史を持っている。
- 西 部：本地区は、平成 17 年に合併された旧福岡町によって構成されている。旧北陸道の宿場町として発展してきた地域であり、現在も伝統的建造物を残す往来は歴史まちづくり計画の重点区域に位置づけられている。また、本地区では、古くから菅笠づくりが盛んに行われており、菅田や管干しなどの伝統的景観が残されている。
- 南 部：本地区は、昭和 41 年に合併された旧戸出町と旧中田町によって構成されている。上使街道の要衝として、また、舟運と陸運が交差する物資の集積地として発展してきた地域であり、これらの歴史を伝える史跡等が残されている。

表 合併の経緯と主な歴史・文化資産

地域	合併の経緯	地域内の主な歴史・文化資産
北部	○昭和 17 年合併	○奈良時代の越中国府、万葉の歴史（歌人・大友家持の赴任） ○伏木港（小矢部川の舟運と結びついた港町） ○伏木曳山祭 ○伏木～吉久の伝統的建造物
中部	○明治 22 年市政施行 昭和 30 年頃まで合併	○高岡城跡（古城公園） ○城下町（山町筋・金屋町の町並み、寺社仏閣） ○前田家ゆかりの史跡（墓所等） ○伝統工芸（銅鑄物・漆器） ○高岡御車山祭
北西部	○戦前～戦後に合併	○丘陵地に分布する遺跡、古墳 ○戦国時代の山城・平城
西部	○平成 17 年合併	○菅笠づくり（菅田・管干し） ○旧北陸道の宿場町
南部	○昭和 41 年合併	○舟運と陸運が交差する物資集積地 ○上使街道の要衝

（資料：高岡市歴史まちづくり計画を参考に整理）



(資料：都市計画基礎調査 (H25))

図 主な歴史・文化資産の分布

## (2) 地域住民の意向

ここでは、総合計画策定時に実施した住民意向調査のうち、現住所の選択理由や住みよさ又は住みにくさの理由に関する設問及びその回答をもとに、各地域で特に重視されている項目、また他の地域と比較して重視されている項目について分析する。

○北 部：「現住所の選択の理由」としては「親や家族が近くに住んでいる」が最も多く、「勤務先の指定・斡旋」も比較的多くあげられている。また、「住みよさの理由」については、恵まれた自然環境が評価されている。

一方で、「現住所の選択の理由」における買い物利便性に対する評価は低く、「住みにくさの理由」でも買い物等の店や娯楽施設の少なさ（地域内に1,000㎡以上の商業施設は1件のみ）がトップにあげられている。

○中 部：「現住所の選択の理由」及び「住みよさの理由」において買い物の利便性に対する評価が高いほか、公共交通機関や道路整備に対する評価も他地域より高い。

一方、通勤・通学の利便性に関しては、中心市街地を含む高陵中学校区や高岡西部中学校区では「住みよさの理由」として評価されている一方、飛び市街地の牧野中学校区や地域南側の南西中学校区では「住みにくさ」の理由として多くあげられている。

○北西部：「現住所の選択の理由」及び「住みよさの理由」において自然豊かな居住環境と住宅価格の安さが評価されているが、「住みにくい」と評価する割合が他地域よりも高くなっている。「住みにくさの理由」としては、買い物等の店の少なさ（地域内に1,000㎡以上の商業施設なし）、通勤・通学の便の悪さが多くあげられている。

○西 部：「住みよい」と評価する割合は最も高く、「現住所の選択の理由」及び「住みよさの理由」において自然豊かな居住環境が評価されているほか、「親や家族との同居」が多くあげられている。

「住みにくさの理由」としては、買い物等の店の少なさ（地域内に1,000㎡以上の商業施設は1件のみ）、通勤・通学の便の悪さがあげられている。

○南 部：「現住所の選択の理由」として「住宅取得がしやすかった」が最も多くあげられているほか、子育て施設や医療施設の充実を理由にあげる割合が他地域よりも高くなっている。一方で、「住みにくさの理由」としては、通勤・通学の便の悪さ、仕事・収入の場がないことがあげられている。

表 転居先として現在住所を選択した理由

設問	北部		中部		北西部		西部		南部		不明		合計	
1. 親や家族が住んでいる家に同居	6	22.2%	50	14.0%	0	0.0%	6	27.3%	8	20.0%	0	0.0%	70	15.5%
2. 親や家族が近くに住んでいる	10	37.0%	89	25.0%	1	16.7%	6	27.3%	8	20.0%	0	0.0%	114	25.2%
3. 元々自己所有の住宅があった	2	7.4%	13	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	5	12.5%	0	0.0%	20	4.4%
4. 勤務先の指定・あっせん	3	11.1%	15	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	19	4.2%
5. 勤務先に近い	4	14.8%	94	26.4%	1	16.7%	6	27.3%	8	20.0%	0	0.0%	113	24.9%
6. 公共交通機関が利用しやすい	2	7.4%	49	13.8%	0	0.0%	2	9.1%	2	5.0%	0	0.0%	55	12.1%
7. 道路が整備されている	1	3.7%	29	8.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.5%	0	0.0%	33	7.3%
8. 子供の学習・通学環境がよい	1	3.7%	32	9.0%	0	0.0%	3	13.6%	1	2.5%	0	0.0%	37	8.2%
9. 保育所など子育て支援が充実している	2	7.4%	6	1.7%	0	0.0%	1	4.5%	4	10.0%	0	0.0%	13	2.9%
10. 周辺の居住環境がよい（閑静、自然が豊かなど）	3	11.1%	68	19.1%	2	33.3%	7	31.8%	5	12.5%	0	0.0%	85	18.8%
11. スーパーマーケットなど買い物便利	0	0.0%	99	27.8%	0	0.0%	1	4.5%	6	15.0%	0	0.0%	106	23.4%
12. 公園・児童館など子供のための施設が近い	0	0.0%	6	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.5%	0	0.0%	7	1.5%
13. 医療施設が利用しやすい	1	3.7%	21	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.5%	0	0.0%	25	5.5%
14. ごみ処理、上下水道など生活関連環境がよい	0	0.0%	10	2.8%	0	0.0%	1	4.5%	3	7.5%	0	0.0%	14	3.1%
15. 福祉施設が利用しやすい	1	3.7%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.5%	0	0.0%	4	0.9%
16. 住宅取得がしやすかったため（分譲価格等）	4	14.8%	46	12.9%	2	33.3%	4	18.2%	11	27.5%	0	0.0%	67	14.8%
17. 住宅情報（賃貸を含む）が充実していた	1	3.7%	29	8.1%	0	0.0%	2	9.1%	2	5.0%	1	50.0%	35	7.7%
18. 住宅取得の支援制度が利用できた	1	3.7%	15	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.5%	0	0.0%	17	3.8%
19. その他	4	14.8%	35	9.8%	3	50.0%	2	9.1%	4	10.0%	0	0.0%	48	10.6%
合計	27	100.0%	356	100.0%	6	100.0%	22	100.0%	40	100.0%	2	100.0%	453	100.0%

注：着色部分は各設問で最も回答割合が高い地区、赤字は各地区で最も回答割合が高い項目

表 高岡市の住みよさについて

設問	北部		中部		北西部		西部		南部		不明		合計	
1. 住みよい+2. どちらかといえば住みよい	142	73.2%	1336	77.5%	41	71.9%	148	78.7%	217	77.0%	8	61.5%	1892	77.0%
3. どちらかといえば住みにくい+4. 住みにくい	37	19.1%	249	14.5%	11	19.3%	26	13.8%	45	16.0%	3	23.1%	371	15.1%
5. わからない	13	6.7%	97	5.6%	2	3.5%	9	4.8%	14	5.0%	2	15.4%	137	5.6%
不明	2	1.0%	41	2.4%	3	5.3%	5	2.7%	6	2.1%	0	0.0%	57	2.3%
合計	194	100.0%	1723	100.0%	57	100.0%	188	100.0%	282	100.0%	13	100.0%	2457	100.0%

注：着色部分は最も回答割合が高い地区

表 住みよいと思う理由（住みよい等の回答者のみ）

設問	北部		中部		北西部		西部		南部		不明		合計	
1. 土地に愛着がもてる	51	35.9%	341	25.5%	15	36.6%	41	27.7%	50	23.0%	3	37.5%	501	26.5%
2. 安定した仕事・職場がある	10	7.0%	108	8.1%	2	4.9%	13	8.8%	11	5.1%	0	0.0%	144	7.6%
3. 水・緑など自然環境に恵まれている	76	53.5%	376	28.1%	27	65.9%	78	52.7%	104	47.9%	1	12.5%	662	35.0%
4. 買い物 convenient である	12	8.5%	479	35.9%	4	9.8%	25	16.9%	51	23.5%	3	37.5%	574	30.3%
5. 保健・医療・福祉などの施設・設備が充実している	7	4.9%	96	7.2%	1	2.4%	3	2.0%	7	3.2%	1	12.5%	115	6.1%
6. 子育て環境が良い	7	4.9%	48	3.6%	1	2.4%	5	3.4%	13	6.0%	0	0.0%	74	3.9%
7. 教育・文化・スポーツなどの活動がしやすいまちである	4	2.8%	29	2.2%	1	2.4%	4	2.7%	5	2.3%	0	0.0%	43	2.3%
8. 通勤・通学などの交通の便が良い	6	4.2%	153	11.5%	1	2.4%	12	8.1%	10	4.6%	1	12.5%	183	9.7%
9. 災害の危険性が少ない	68	47.9%	530	39.7%	20	48.8%	64	43.2%	100	46.1%	3	37.5%	785	41.5%
10. 住宅事情が良い	9	6.3%	90	6.7%	1	2.4%	9	6.1%	13	6.0%	1	12.5%	123	6.5%
11. その他	0	0.0%	13	1.0%	0	0.0%	3	2.0%	1	0.5%	0	0.0%	17	0.9%
不明	0	0.0%	114	8.5%	4	9.8%	8	5.4%	18	8.3%	0	0.0%	144	7.6%
合計	142	100.0%	1336	100.0%	41	100.0%	148	100.0%	217	100.0%	8	100.0%	1892	100.0%

注：着色部分は各設問で最も回答割合が高い地区、赤字は各地区で最も回答割合が高い項目

表 住みにくいと思う理由（住みにくい等の回答者のみ）

設問	北部		中部		北西部		西部		南部		不明		合計	
1. 土地柄になじめないから	1	2.7%	36	14.5%	1	9.1%	3	11.5%	4	8.9%	1	33.3%	46	12.4%
2. 希望する仕事・収入の場がないから	6	16.2%	40	16.1%	2	18.2%	2	7.7%	9	20.0%	0	0.0%	59	15.9%
3. 水・緑など自然環境が不足しているから	0	0.0%	6	2.4%	0	0.0%	2	7.7%	1	2.2%	0	0.0%	9	2.4%
4. 買い物や外食できる店、娯楽施設が少ないから	18	48.6%	67	26.9%	4	36.4%	14	53.8%	8	17.8%	1	33.3%	112	30.2%
5. 保健・医療・福祉などの施設・設備が不足しているから	5	13.5%	23	9.2%	1	9.1%	4	15.4%	7	15.6%	0	0.0%	40	10.8%
6. 子育て環境がよくないから	5	13.5%	22	8.8%	2	18.2%	1	3.8%	8	17.8%	0	0.0%	38	10.2%
7. 教育・文化・スポーツなどの活動がやりにくいから	0	0.0%	21	8.4%	1	9.1%	0	0.0%	5	11.1%	0	0.0%	27	7.3%
8. 通勤・通学などの交通の便が悪いから	11	29.7%	72	28.9%	4	36.4%	10	38.5%	18	40.0%	1	33.3%	116	31.3%
9. 積雪・雨が多いから	8	21.6%	56	22.5%	2	18.2%	7	26.9%	5	11.1%	0	0.0%	78	21.0%
10. 住宅が求めにくいから	1	2.7%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.2%	0	0.0%	7	1.9%
11. その他	5	13.5%	53	21.3%	2	18.2%	3	11.5%	10	22.2%	1	33.3%	74	19.9%
不明	0	0.0%	24	9.6%	2	18.2%	1	3.8%	4	8.9%	0	0.0%	31	8.4%
合計	37	100.0%	249	100.0%	11	100.0%	26	100.0%	45	100.0%	3	100.0%	371	100.0%

注：着色部分は各設問で最も回答割合が高い地区、赤字は各地区で最も回答割合が高い項目

### (3) 地域別の都市構造分析

ここでは、「立地適正化計画」の都市構造分析で実施した評価項目のうち、地域別で算出可能な項目（カバー率、人口密度）を算出し、各地域に集積している主要な日常生活サービス機能に関する徒歩での利便性について分析する。

- 北 部：市街地が形成できる範囲が地形上制約されていることもあり、市街化区域内の人口密度は中部地域に次ぐ水準で維持されている。医療・高齢者福祉の生活サービス機能の徒歩圏人口カバー率は全国平均以上となっているが、商業の徒歩圏人口カバー率は市平均より低くなっている。また、鉄道及びバスの運行本数が少ないため、公共交通の利便性が市平均よりも低い。
- 中 部：生活サービス機能（医療・高齢者福祉・商業）の集積が多く、他地域と比較すると市街化区域内の人口密度も高く維持されてため、生活サービス機能の徒歩圏人口カバー率は全国平均以上の水準となっている。また、鉄軌道のほか運行本数の多いバスもあるため、公共交通の徒歩圏人口カバー率でも全国平均以上となっている。
- 北西部：高齢者福祉については、人口あたりの施設数では他地域よりも多いものの、丘陵地や田園集落が多く、全体的に人口密度が低いことから徒歩圏人口カバー率は低くなっている。医療と商業、公共交通（バス）については、施設や運行本数そのものが少ないため、非常に利便性が低い状態となっている。
- 西 部：5地域中最も用途地域内の人口密度が低く、生活サービス機能（医療・高齢者福祉・商業）が徒歩圏内にない人口の割合の方が高い状態となっている。あいの風とやま鉄道はJR 氷見線・城端線よりも運行本数が多く、周辺市街地の中では比較的公共交通利便性が高い地域となっている。
- 南 部：生活サービス機能（医療・高齢者福祉・商業）の集積は中部地域に次いで多いが、人口の集積と施設の集積が必ずしも一致していないため、徒歩圏人口カバー率では全国平均以下の水準となっている。鉄道及びバスの路線数が少ないため、公共交通の利便性も低くなっている。

表 各種徒歩圏カバー率・市街化区域内等の人口密度の比較

地区	北部	中部	北西部	西部	南部	合計	全国平均
日常生活サービス徒歩圏人口カバー率	0.6	40.1	0.0	18.8	0.0	28.6	29.7
医療施設徒歩圏人口カバー率	79.1	89.9	39.6	37.1	69.6	79.9	75.9
高齢者福祉施設徒歩圏人口カバー率	90.5	94.5	56.5	66.8	63.1	86.4	73.2
商業施設徒歩圏人口カバー率	22.0	73.4	0.1	23.5	50.8	58.8	65.2
基幹公共交通徒歩圏人口カバー率	8.3	48.6	6.3	23.0	0.0	35.6	40.0
(参考) 用途地域内人口密度	25.5	34.5	10.5	15.6	24.7	30.8	44.0

注：・日常生活サービス徒歩圏：上記3つの生活サービス施設と基幹的公共交通の全てを利用できる範囲

- ・医療施設＝病院、診療所（内科を含む施設のみ）
- ・高齢者福祉施設＝訪問介護事業所、通所介護事業所（デイサービス）、地域密着型通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所、地域密着型サービス
- ・商業施設＝日用品を購入できる1,000㎡以上のスーパー、百貨店、ドラッグストア（専門店、ホームセンターは含まない）
- ・基幹公共交通＝片道30本/日以上の鉄軌道駅又はバス停
- ・徒歩圏＝施設・鉄軌道駅から半径800m内、バス停は半径300m内
- ・全国平均は「地方都市圏 おおむね30万都市」の全国平均値

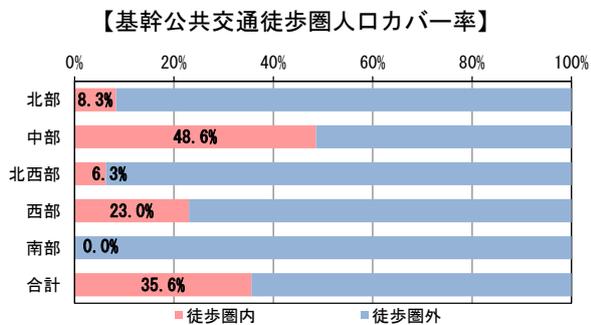
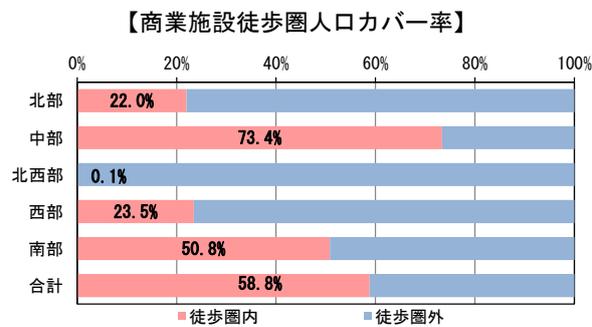
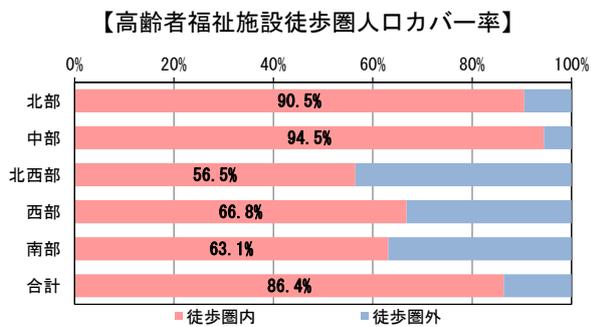
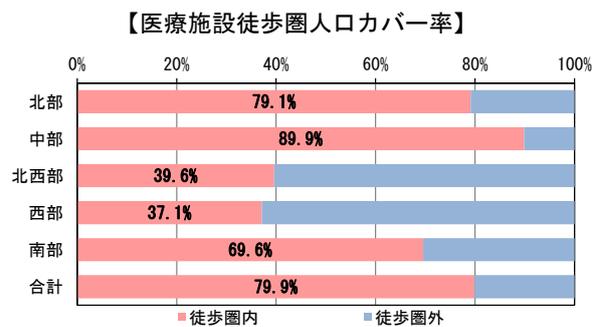
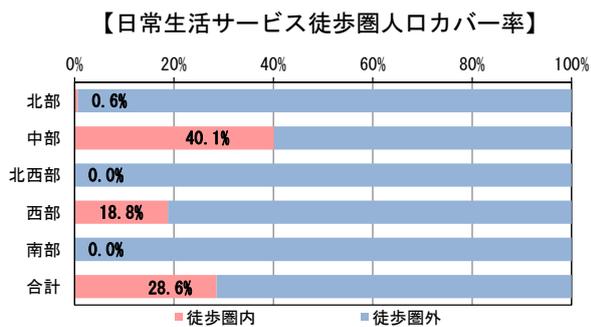


図 各種徒歩圏人口カバー率



図 用途地域内人口密度

表 主要施設の集積状況

【施設数】				【人口1万人当たり施設数】			
地域	医療	福祉	商業	地域	医療	福祉	商業
北部	6	15	1	北部	4.4	10.9	0.7
中部	64	110	24	中部	5.5	9.5	2.1
北西部	2	10	0	北西部	2.0	10.2	0.0
西部	3	10	1	西部	2.3	7.7	0.8
南部	11	18	3	南部	5.7	9.4	1.6
合計	80	148	28	合計	5.1	9.3	1.8

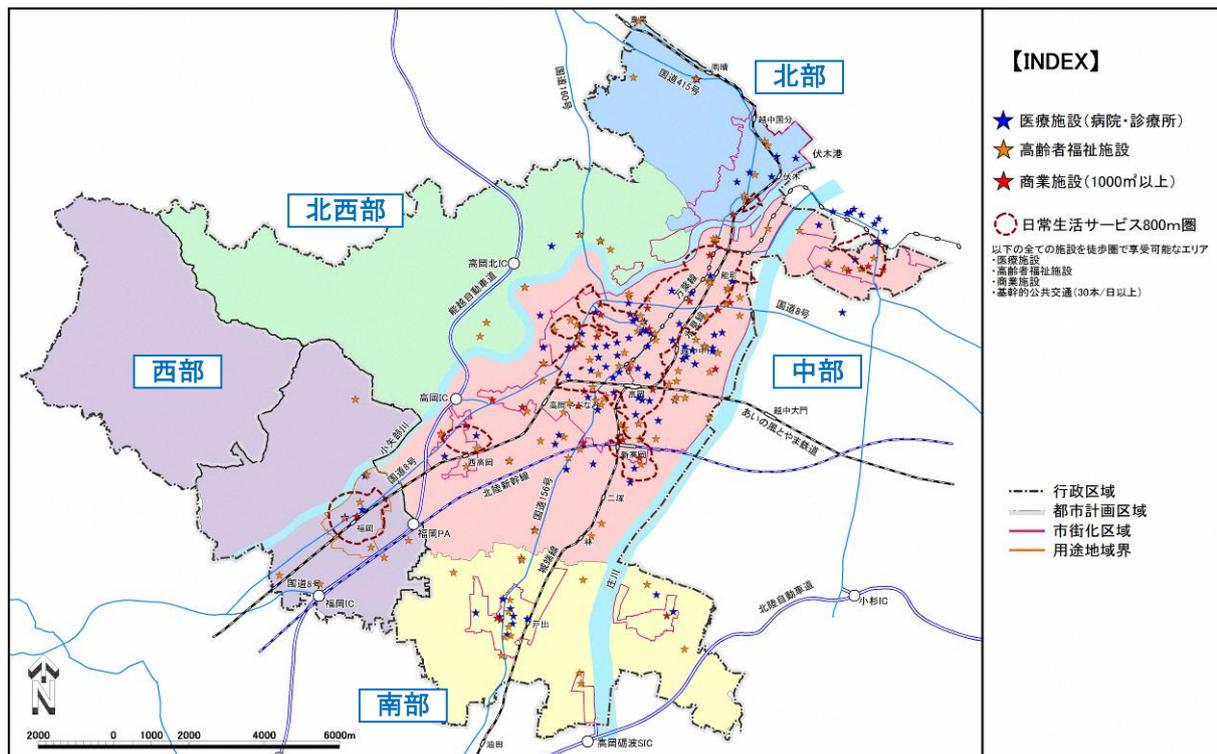


図 日常生活サービス徒歩圏

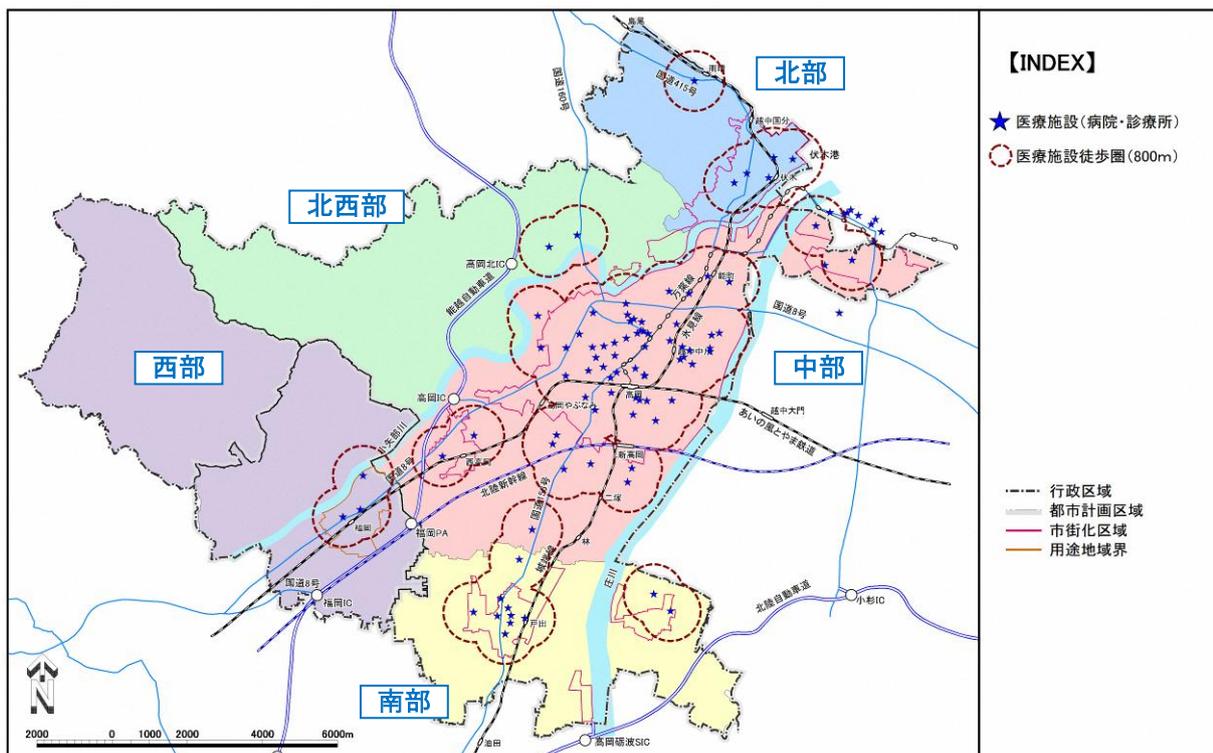


図 医療施設徒歩圏

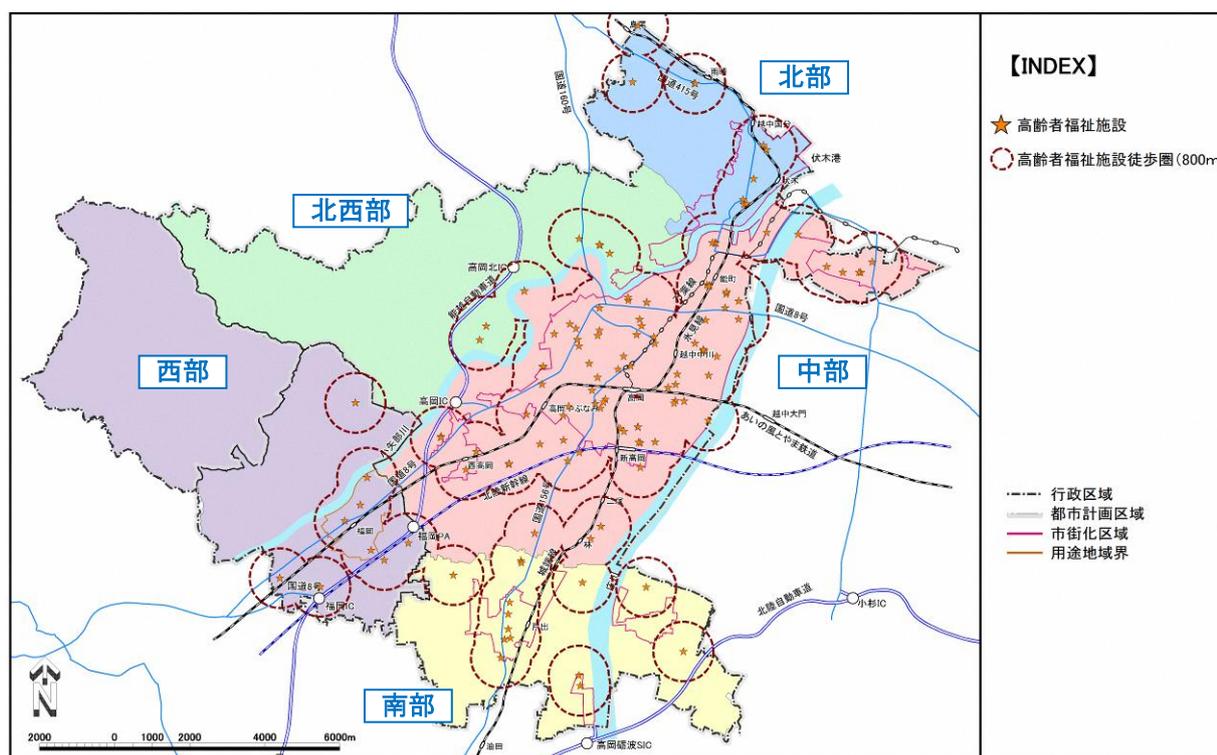


図 高齢者福祉施設徒歩圏

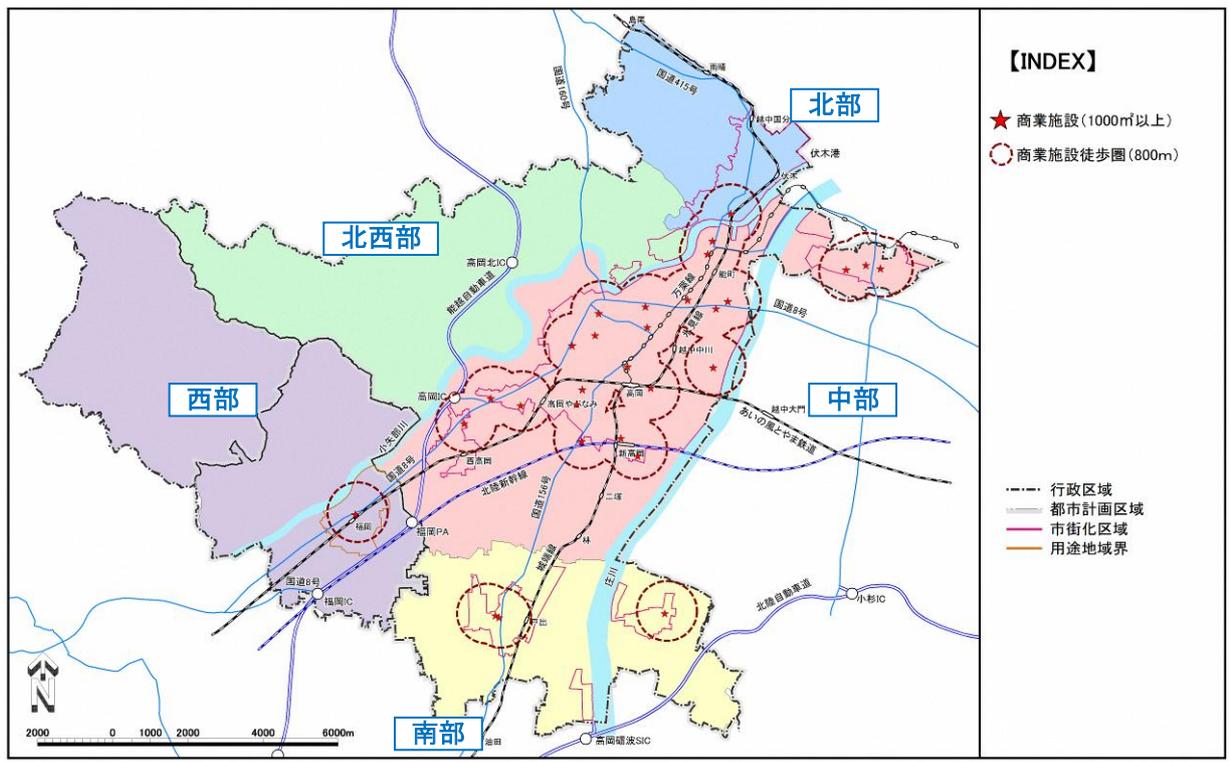


図 商業施設徒歩圏

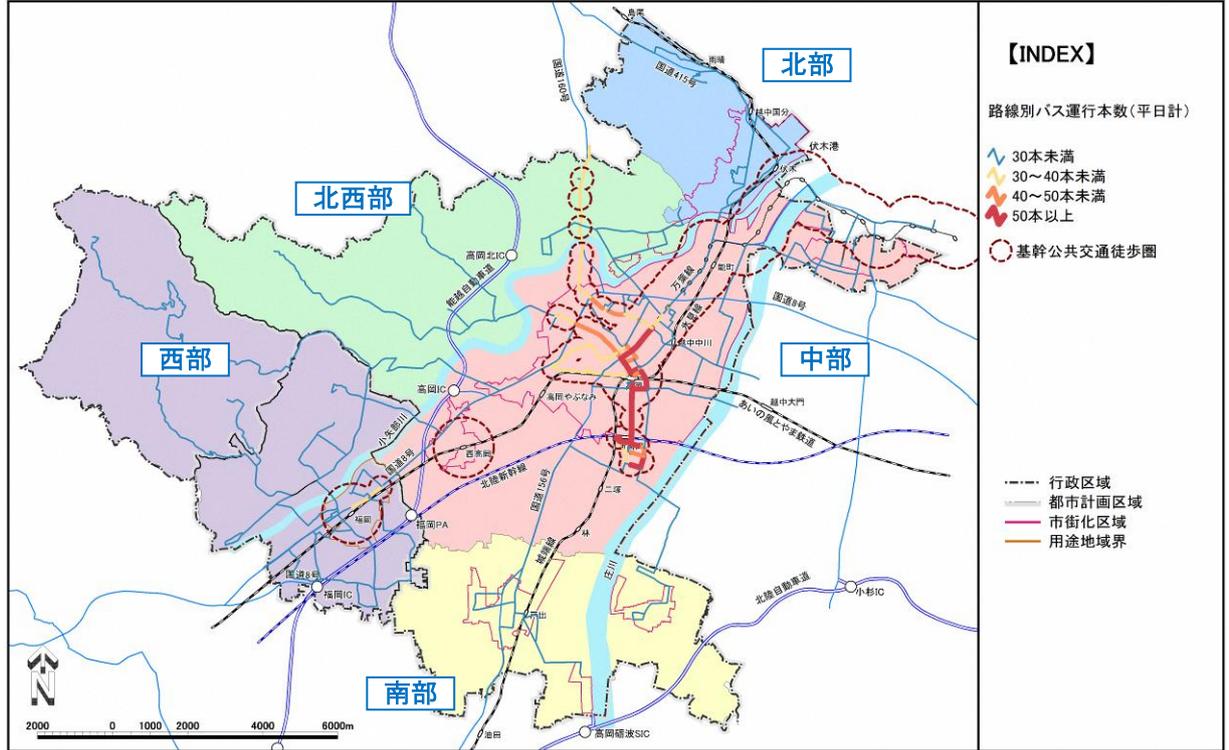


図 基幹公共交通徒歩圏